

# 第二共和政

1. 共和国臨時政府
2. アサーニャの二年間
3. 経済界と右翼の反撃
4. 暗い二年間とスペイン十月革命
5. 人民戦線政府の成立

# 1. 共和国臨時政府

- 1931年4月14日＝「プエブロの革命 Revolución Popular」
  - プエブロ(国民、人民、勤労者、など等)
- 首班アルカラ・サモーラの臨時政府
  - 将校団の削減
  - カタルーニャでの暫定的自治政府(ジャンラリタート)設置
  - 村外労働者雇用制限政令
  - 労資紛争調停委員会の設置
- 6月、制憲議会選挙。
- 7月14日、議会の開催(バステューユ襲撃の記念日)
- 資本の国外流出
- 修道院の焼き討ち
- 土地占拠運動
- CNTの直接行動

- ・ 新憲法の審議
- ・ 自治問題をめぐる各党の対立
- ・ 社会化条項、宗教条項をめぐる対立
  
- ・ アルカラ・サモラの辞任とアサーニャの首班
  - 墓地や婚姻の非教会化
  - 離婚の自由
  
- ・ 1931年12月9日、憲法の可決
  - 初代大統領にアルカラ・サモラ

## 2. アサーニャの二年間

- ・ アサーニャを首相に任命
- ・ 左翼共和派と社会労働党の連立内閣の組織
- 治安問題
  - 1931年12月末、カスティルブランコ村の事件
  - 1931年1月初め、アルネード村の事件
  - 1931年1月、カタルーニャのCNT蜂起に激しい弾圧
- 教会問題
  - イエズス会解散の措置——反国家的修道会とみなす。
  - ※カスティーリャ、レオンなどの農民をカトリック右翼に向かわせる。
  - ※教皇回勅『レルム・ノヴァルム』すら定着しない保守的なスペイン教会の現状
  - 非カトリック化の必要

- 1932年8月、サンフルホ将軍のクーデタ失敗  
→共和政への支持を再燃させる。
- 1932年9月、国会でカタルーニャ自治憲章 **Estatuto** の可決  
-カタルーニャの要求したものよりも後退  
-自治政府への権限の移管が遅れる。
- 1932年9月、農地改革法 **Reforma Agraria**  
——大所有地を有償で収用し、日雇い農民に貸与することを骨子とする。  
-多くの抜け道、小額の予算→成果をほとんどあげず。  
※「アサーニャの二年間」に、土地供与を受けたのはわずかに4500戸(必要とする農家は85万戸あった)。  
→農民の失望、雇用と賃金引き上げを求めて闘わざるを得ず。  
→ガリシアの零細経営(ミニフンディオ)なども手付かず。

表7-1 1931-1933-1936年の各総選挙後における政党議席数

	1931年 選挙①	1933年 選挙②	1936年 選挙③	
PCE 共産党	0	1	17	左 翼
PSOE+PSC 社会党	118	63	99	
PRRS+PRRSR 社会急進党	55	4	—	左 派 共和主義
AR 共和主義行動党	30	5	—	
IR 共和主義左翼党	—	—	87	
ERC エスケーラ	37	18	36	
AC カタルーニャ行動党	2	0	—	
UR 共和主義同盟	—	—	39	
ORGA+rep. gall.	17	6	—	
PRF+PRFI 連邦党	13	1	1	
Centristas 中央党	—	—	16	
PRR 急進党	94	102	4	
DLR 共和主義自由右翼党	23	{ PRC 13 PRP 3	同 { 3 6	
PLD 民主自由党	3	9	1	
ASR 共和四奉仕団	13	—	—	
Lliga リーガ	4	25	12	
Agr. 農業党	26	36	11	
CEDA セーダ	—	115	88	右 翼
Vasconavarros	15	PNV 12	同 10	
RE ス페인刷新党	(Monar. Lib.) 1	15	BN 13	
Trad. 伝統党(カルリスタ)	—	20	9	
無所属, 諸派	19	17	18	
総 計	470	470	470	

(主たる出所) ①: Fernando de Meer, *La Constitución de la II República*, p. 27.

②: D. Sevilla Andrés, *Historia Política de España (1800-1967)*, p. 946. J. S.

Vidarte, *El Bienio Negro y la Insurrección de Asturias*, pp. 43-44. ③: D.

Sevilla Andrés, *Historia Política de España (1800-1967)*, p. 947. Stanley G.

Payne, *The Spanish Revolution*, p. 184. (山内明訳『スペイン革命史』128頁)

(注) ORGA (ガリシア自治共和党) rep. gall. (ガリシア共和主義者) PRC (共和主義保守党) PRP (共和主義進歩党) Vasconavarros (バスク・ナバーラ合同議員団) PNV (バスク民族主義党) Monar. Lib. (旧自由党系保守議員) BN (国民プロック)

### 3. 経済界と右翼の反撃

- ・ 労働者・農民のための改革は、経済界の反発を生む。
- ・ 1931年11月、全国経済同盟の結成
  - 労働運動への厳しい対処、農地改革の停止、労資紛争調停委員会の廃止、内閣からの社会労働党の排除、などを要求。
  - 労働政策や農地改革をサボタージュ
  - 右翼や急進党との協力関係を強める。
- ・ 右翼側の態勢の建て直し
  - カルリスタ(伝統主義者)、王党派、カトリック右翼の三者にまとまる。
    - ※「神、祖国、家族、所有権、社会秩序」をいずれも掲げる。
  - 1933年6月の宗教団体法に結束して反対。
  - 1933年2月～3月、スペイン独立右翼連合(CEDA)の結成
  - 1933年秋、ホセ・アントニオ・プリモ・デ・リベラがファシスト政党ファランへを結成。
    - 翌年2月、サンディカリスト攻撃評議会(JONS)と合同。
- ・ 治安問題の深刻化
  - 1933年1月、CNTの武装蜂起、「アナーキズム的共産主義」の宣言。
  - カサス・ビエハス村の事件——治安側に3名、農民側に22名の死者。

- ・ アルカラ・サモラ大統領は、アサーニャに代えてレルーを首相に任命。  
→レルーは議会の信任を得られず。大統領は議会を解散。
- ・ 右翼の選挙連合の結成——CEDA、王党派、カルリスタ
- ・ 1933年11月・12月に投票
  - ※CEDAが115議席、急進党が102議席、社会労働党が64議席、左翼共和派諸党派合計で40議席に達せず。
  - ※この選挙で初めて女性が投票した。
  - ※CNTの「選挙ではなく蜂起による革命を」の棄権キャンペーン。UGTを含む民衆の棄権。



# 4. 暗い二年間とスペイン十月革命

- ・ 1933年12月、レルーは急進党単独の内閣を組織  
→CEDAに迎合した政策をとる。  
※教育の非カトリック化の停止、村外労働者雇用制限法の廃止、など等。  
※反改革の二年、「暗い二年間」
- ・ 右翼のさらなる攻勢——コーポラティヴな国家を主張。  
(職能団体の代表が政治を行なう)  
※CEDA党首ヒル・ロブレスは、「ヘフェ」と呼ばれる。青年部が過激な街頭行動を繰り返す。
- ・ 社会労働党左派の反撃の動き  
——ファシストの政権掌握に対する危機感  
-反ファシズム戦線「労働者同盟」  
-カタルーニャで、アスケーラ(カタルーニャ共和主義左翼)が攻勢:自治州議会で小作農民保護の法律を可決。  
→リーガ、カタルーニャ地主団体、中央政府と対立。

- ・ 1936年10月4日、サンペール辞任後、レルーがCEDA3名を含む内閣を組閣
- ・ 社会労働党は、全国蜂起を指令
  - 「スペイン十月革命」
  - マドリードほか各地ではすぐに敗北
  - アストウリアスは例外となった。
  - ※ダイナマイトや武器。炭鉱地域を制圧、コミューンを形成。
  - ※2週間の抵抗。政府側は二万の鎮圧軍(フランコが総指揮)を投入。
    - 蜂起側死者1000人以上、政府軍側300人以上。
  - カタルーニャでは、クンパニイスが「スペイン連邦共和国内のカタルーニャ国家」成立を宣言。ただちに鎮圧された。
- 十月革命後、全国で約4万人が投獄された。
- 政府は、反改革政策を加速させた。
  - ※カタルーニャ自治権の停止。イエズス会財産の返還。
  - 反農地改革法の成立、など等。

- ・ 弾圧と反改革政策→左翼を統一に向かわせる。
  - 1935年春、アサーニャが左翼統一戦線を呼びかける。
  - 共産党は、コミンテルンの人民戦線戦術に従って賛成する。
- ・ 右翼側では不一致が顕在化
  - ヒル・ロブレスの妥協的態度への反発
  - カルボ・ソテーロを党首とする「国民ブロック」の結成
  - レルーは、反改革政策への加担と、ルーレット導入疑獄事件によって威信を失う。→急進党の解体。
- ・ 1936年1月7日、アルカラ・サモラ大統領は、議会を解散
  - 左翼は、いわゆる人民戦線協定を締結、選挙連合を組む。
  - CNTは、政治的恩赦に期待して、棄権を呼びかけず。
  - 右翼は、選挙連合を組めず。
- ・ 1936年2月の総選挙
  - ※左翼——257議席、470万票
  - 右翼——139議席
  - 中道派——57議席。 右翼と中道派の合計、430万票

# 5. 人民戦線政府の成立

- ・ 選挙後、軍部と右翼は、クーデタを画策したが失敗
- ・ 改めてモラ将軍らがクーデタ準備を始める。
  
- ・ 急進化した民衆は、獄中政治犯を実力で解放
- ・ 都市でのストライキ、農村での土地占拠運動
  
- ・ テロ行為の応酬
- ・ ファランへ指導者ホセ・アントニオの逮捕
  
- ・ 1936年4月、国会はアルカラ・サモラを解任、翌月にアサーニャが大統領に就く。
  
- ・ クーデタ計画の進行
  - 政府は、フランコをカナリア諸島に、モラをナバーラに異動させていた。
  - 7月11日、フランコをカナリア諸島からモロッコへ飛ぶ飛行機がイギリスを飛び立つ。
  - 7月13日、カルボ・ソテーロが突撃警察によって暗殺される。
  - 7月17日、植民地モロッコで反乱が始まる。